

令和7年度日本語学校教育研究大会日程

1日目 2025年8月7日(木) 講演・パネルディスカッション・ポスター発表・デモンストレーション等
2日目 2025年8月8日(金) 分科会・自由研究発表等

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟・センター棟

テーマ:今こそみんなの教育実践を共有しよう

1日目(8月7日)

9:20～ 受付

カルチャー棟 1F 小ホール(定員 330 人)

10:00～10:30 (ライブ配信 アーカイブ配信)	開会挨拶 一般財団法人日本語教育振興協会理事長 加藤早苗 来賓挨拶 大会趣旨説明 大会委員長 惟任将彦(大阪 YMCA 学院 教務主任)
10:30～11:20 (ライブ配信 アーカイブ配信)	講演 「文部科学省の日本語教育施策の動向」 文部科学省総合教育政策局日本語教育課長 降旗友宏
11:30～12:20 (ライブ配信 アーカイブ配信)	講演 「育成就労制度及び特定技能制度における日本語要件と認定日本語教育機関の活用について」 出入国在留管理庁政策課調整官 山形正洋

12:20～14:30 昼休憩

食堂等について
時間帯やセンターの利用状況によりカフェテリア『ふじ』(センター棟 2F) は混み合う可能性があります。コンビニエンスストア(宿泊 D 棟 1 階交流プラザ横)やイートインスペース(カルチャー棟 2F)もありますのでご利用ください。

ポスター発表(1)～(14)・デモンストレーション①

カルチャー棟 1F 展示スペース

12:30～14:30 (配信なし)	(1)国語辞典を用いた語彙習得の試みー能動的な語彙の探索とその課題 萩原秀樹(インターカルト日本語学校)
	(2)日本語教育人材の「やってみたい」を応援するー日本語教育学会チャレンジ支援委員会の取り組みー 杉本香(大阪大谷大学)、平山允子(日本学生支援機構)、春口淳一(大阪産業大学)、末松大貴(名古屋学院大学)、古賀万紀子(神田外語大学)、香月裕介(神戸学院大学)、安達万里江(法政大学)
	(3)教育理念を明確化するための新人日本語教師どうしの場作りの提案ー所属機関の異なる教師との「三位一体」モデルを用いた語り合いをとおしてー 岸根彩子・伊藤茉莉奈・櫛田ひかる・竹内雪乃・寺浦久仁香・仁野玲菜、野宮公美・藤原恵美(翰林日本語学校)
	(4)日本語学校における防災教育の取り組みと展望 渡部柊斗(国際ことば学院日本語学校)
	(5)「活動あって学びあり」を実現する学習デザインー社会とつながるプロジェクト型実践を通じてー 内田さつき・新谷葉菜(コミュニカ学院)

12:30～14:30 (配信なし)	(6)外国人留学生と発達障害についての意識調査—日本語学校に所属する留学生向けアンケート結果より— 小林唯(新宿日本語学校)
	(7)「いろいろ 生活の日本語」をメインテキストとして使用した実践報告 吉川巧也・内田優美・春山友里奈(新東京国際語学院)
	(8)対面イベント「日本語教師の管理運営業務について話してみよう!～自分の現場のお仕事見直し編～」の実践報告 古川嘉子(帝京大学)、平山允子(日本学生支援機構東京日本語教育センター)、中川健司(横浜国立大学)、安中浩美(アン・ランゲージ・スクール)、浦由実(元アン・ランゲージ・スクール)
	(9)外国人留学生の安全確保と地域連携を目的とした防災教育 田口正志・小林更子・菊池悠次(日本語学校つくばスマイル)
	(10)対話を通して同僚教員の作文授業を振り返る—いかにして教員 S の授業は作文に対する学生の態度変容につながったのか— 進士真也(浜松日本語学院)
	(11)自律的な異文化理解を促進するマナー授業案 加藤淳(ミッドリーム日本語学校)
	(12)学生主体の教育実践を目指そう 郭絢麗・玉置彩香(南大阪国際語学学校)
	(13)共生のバトンをつなぐ地域プロジェクト—理念に基づく教育の場づくりと地域・行政・学生を結ぶ協働の試み— 戸川朝子・阪本健資(南大阪国際語学学校)
	(14)カタカナ指導、どうしてる?～カタカナ授業の実践共有 佐久間みのり(学石川学園横浜デザイン学院)、吉川達(立命館大学)
	①「日本留学試験 記述 ポイント＆プラクティス」を使った実践とその成果 遠藤由美子・樋口絹子(アークアカデミー新宿校)、古川由美子・熊野由佳里・高田ひろみ(ARC東京日本語学校)

協賛団体紹介ブース

カルチャー棟 1F 小ホールホワイエ

12:30～14:30 (配信なし)	(株)アルク、行政書士法人 IPPO、(株)インバウンドジャパン、(株)研究社、(株)恒春閣、(株)国書刊行会、(株)サーティファイ、(株)スリーエーネットワーク、(株)テイクオーバー、(株)PHP 研究所、富士インフォックス・ネット株式会社、(株)凡人社
-----------------------	--

カルチャー棟 1F 小ホール

14:30～16:00 (ライブ配信 アーカイブ配信)	基調講演「実践研究とは何か—日本語学校から実践を発信・共有することの意義—」 三代純平(武蔵野美術大学 グローバルセンター長)
16:00～17:30 (ライブ配信 アーカイブ配信)	パネルディスカッション「日本語・スペイン語・ドイツ語教育の実践者が語る工夫と挑戦」 大森洋子(明治学院大学 名誉教授) 梶浦直子(中京大学グローバル教育センター 外国語嘱託講師) 佐藤正則(Japan Language School 横浜 教務主任)

17:45～ 交流会

宿泊 D 棟 9F さくら(定員 50 人)

2 日目のみ参加の方は、310 室前の受付(9:30～)にお越しください。
 1 日目に受付がお済みの方は、直接各会場へお越しください。
 会場により収容定員が異なります。定員に達した場合、ご入場いただけないことが
 ありますので予めご承知おきください。

2 日目(8 月 8 日)

センター棟

※分科会Ⅰ～Ⅲは、会場参加の方がワークを行う時間帯があります。ワーク中の配信はありません。
 予めご承知おきください。

10:00～12:00 (一部アーカイブ配 信)	分科会Ⅰ 「日本語教育の参照枠」リアルから考える学習活動～ブランク・モジュール を使って～	102 室(定員 180 人)
	分科会Ⅱ わたしたちの研修シェアプロジェクト～経験とアイデアを分かち合おう～	309 室(定員 60 人)
	分科会Ⅲ 「いいな」で終わらせない！～評価実践の持ち寄り&持ち帰りワークショップ～	310 室(定員 120 人)

12:00～13:30 昼休憩

自由研究発表(1)～(11) (配信なし)

センター棟

13:30～14:05	(1) A2.2 レベルクラスにおけるキャリア形成を見据えた自己理解の試み— TEM(複線径路等至性モデリング)を活用した教育実践— 平賀結花(上山学院日本語学校)	102 室
	(2) 子育てサロン案内状の多言語版作成を通じて地域社会と関わるプロ ジェクトワーク実践報告(参照枠 A2 レベルにおける活動) 志田華奈子(西日本短期大学)	309 室
	(3) 「コミュニケーションのための日本語教育文法」における前置き表現— 教科書『できる日本語』の分析を通して— 徐単(南大阪国際語学学校、関西大学)	310 室
	(4) 日本語教師【中堅】研修が受講者のライフキャリアに与えた影響— JCN 研修講師育成コース修了者 4 名の語りから— 惟任将彦(大阪 YMCA 学院)、平山允子(日本学生支援機構東京日本 語教育センター)、柝丸華緒(国際医療福祉大学)、前田和則(Plus ten 株式会社)、小坂凜(京都産業大学)	402 室
14:20～14:55	(5) A1・A2 レベルで必要なタスクの調査—学習者のインタビューから— 佐々木渉(学石川学園横浜デザイン学院)	102 室
	(6) 地域とつながる探究学習—横浜・黄金町を舞台とした実践報告— 佐久間みのり(学石川学園横浜デザイン学院)	309 室
	(7) 中級聴解授業における「多聴」活動の実践 阪本麻子(ジェット日本語学校)	310 室
	(8) 学生の主体的な学びのための教師の発問に関する研究～中級文法 授業の開発とその検証～ 岩崎未来、村田智子、林慎也、雨宮紗希、大塚千晶、吉田晃子(ISIラン ゲージスクール新宿校)	402 室
15:10～15:45	(9) 生活 Can do に基づく留学生の自立を目指す取り組みについて 小宮山一徳・園部秀美(浜松日本語学院)	102 室
	(10) 生成 AI を用いた手書き作文の自動採点 今井新悟・申貞恩(合同会社 Logos)	310 室
	(11) 学校全体で取り組むカリキュラムを目指して～日本語教師のパフォー マンス評価の実践とその課題から～ 佐久間みのり・川名美恵・田中朗子・渡部幸子(学石川学園横浜デザイ ン学院)、石澤徹(東京外国語大学)	402 室

15:45 終了

※なお、日程については当日一部変更になることがあります。